

‘秋田プチホワイト’の花持ち特性

佐藤孝夫・柴田浩・遠藤敦子*
(*山本農業改良普及センター)

1 ねらい

近年、花きの消費の高まりとともに消費者からは花持ちの良い花きが望まれるようになってきている。

そこで、2002年に登録品種となった白花、小輪系で花被片斑点が極少の雄性不稔性ユリ‘秋田プチホワイト’について、他のユリ品種と比較し、花持ち期間について検討した。

2 試験方法

(1)試験年次：2003年

(2)試験場所：栽培は農試ガラス温室(100m²)で、花持ち調査は恒温恒湿庫で行った。

(3)供試品種 14品種

アジアティック(AH)系 12品種：‘秋田プチホワイト’‘イベルフローラ’‘グランドクルー’‘アピニオン’‘イエロージャイアント’‘ベアトリックス’‘ヒルデ’‘ソルベット’‘コネチカットキング’‘モナ’‘コートダジュール’‘サンセール’

LA系 2品種：‘アプリコットウエーブ’‘ロイヤルハynes’

(4)調査方法

圃場で開花直前の蕾を切り取り、すぐに水道水を満たしたピーカーに入れた。実験室に持ち帰ったあと、小花梗を4cmに調節して切り取り、

12mm×120mmの水道水を入れた試験管に入れ、温度20℃、照度8,600LX、日長12hr、相対湿度70%に調節した恒温庫(東洋製作所製NA 1-5S)の中で開花経過を24時間毎に観察した。1品種につき、1番花～2番花の中から各10小花調査した。さらに、一部の品種で恒温庫内で開花した小花に開花当日、各々別の品種の花粉を受粉させて開花後の経過を観察した。

(5)調査基準

萎れ始めた日：花被片の色素が変色あるいは脱色した日

落花日：花被片萎縮後、花被片が離脱した日

(6)耕種概要

球根は2002年10月15日に球周12～14cmの球根をガラス温室に定植した。

3 結果および考察

(1)‘秋田プチホワイト’の花持ち期間

‘秋田プチホワイト’の開花してから萎れ始めるまでの小花の花持ち期間は8.2日で、供試した14品種の中では最も花持ち期間が長かった

(図1)。

(2)‘秋田プチホワイト’の花被片落花の品種特性

ユリの花被片は萎れると、通常花被片が落花するが‘秋田プチホワイト’の花被片は、萎れ、変色して乾燥しても、恒温恒湿庫内では花被片に接触しない限り、萎れた花被片が落花することはなかった。

(3)花被片落花の品種別特徴

花被片の落花が見られない品種は、‘秋田プチホワイト’以外では、LA品種の‘アプリコットウエーブ’だけであった。その他の供試した品種は全て萎れた後に花被片が落花した。花被片が落花する品種の中でも、萎れ始めてから数日後に落花する品種と、萎れ始めと同時に落花する品種が確認されたため、花被片の落花について、萎れ始めてから落花するまでの期間が数日要する品種群をタイプⅠに、萎れ始めると直ちに落花する品種群をタイプⅡに、花被片の落花が見られない品種群をタイプⅢに分類した(表1)。

(4)受粉による萎れ始めまでの花持ち期間への影響

恒温恒湿庫内で強制受粉した後の花持ち期間の比較では、開花後に萎れ始めるまでは受粉の有無による明らかな差は見られなかった(図2)。

(5)受粉による落花までの花持ち期間への影響

強制受粉後の落花までの期間は、明らかに受粉区が早く落花した。また、上記で花被片の落花しないタイプⅢに区分した‘アプリコットウエーブ’は、受粉すると落花したが、‘秋田プチホワイト’は、強制受粉しても花被片の落花は見られなかった(図3)。

4 まとめ

無花粉のアジアティックハイブリッド系ユリ品種‘秋田プチホワイト’は、他のユリ品種よりも花持ち期間が長く、また、花被片が萎れても落花しない特性を持っていることを確認した。無花粉性と花持ち特性が良好との関連や、花被片の落花に作用しているエチレン生成量やエチレン感受性については今後検討が必要である。

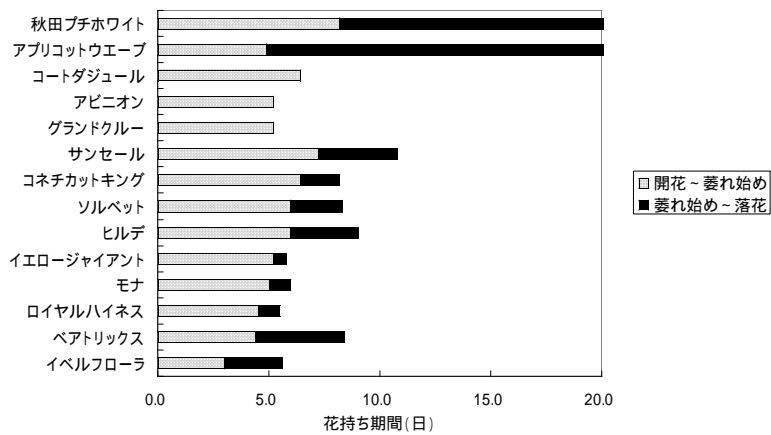


図1 品種別花持ち期間の比較

表1 花被片落花のタイプ別品種構成

タイプ	品種群の内容	品種
タイプ	花被片が落花するまで数日間要する品種群	イベルフローラ、ペアトリックス、モナ、イエロージャイアント、ヒルデ、ソルベット、コネチカットキング、サンセール、ロイヤルハイネス
タイプ	萎れ始めるとすぐに落花する品種群	グランドクルー、アビニオン、コートダジュール
タイプ	花被片が萎れても落花しない品種群	アプリコットウエーブ、秋田プチホワイト

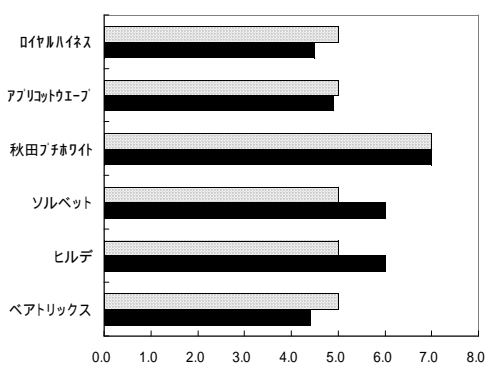


図2 受粉の有無による萎れ始めるまでの品種別別花持ち期間比較

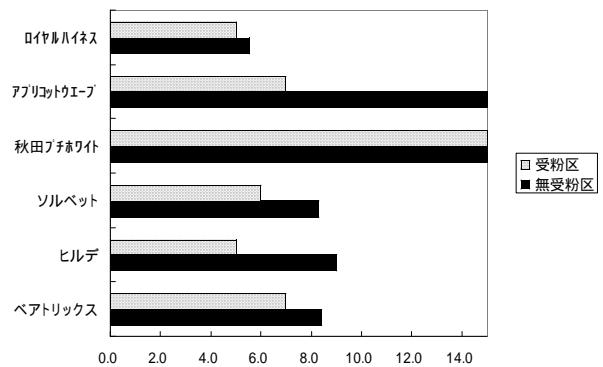


図3 受粉の有無による落花までの品種花持ち期間比較